

3 - 17 伊豆半島の地殻水平歪

Earth's Strain in the Izu Peninsula

国土地理院 藤 井 陽一郎

Yoichiro Fujii

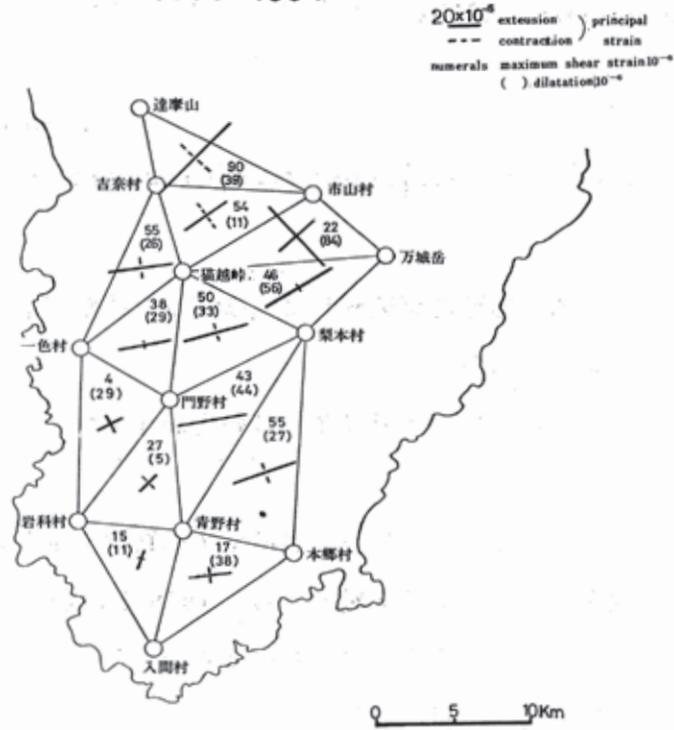
Geographical Survey Institute

近年伊豆半島の地震活動は活発であるが、半島内陸部に蓄積歪が残っている可能性の有無を判断する資料として、明治以来今日に至る期間の地殻水平歪を計算した。

第1図は、1884年より1975年までの間の水平歪である。1975年の結果とともに1884年の旧2等三角測量結果も電子計算機によって再平均した。北部は1930年北伊豆地震の影響を受けているので図示した範囲から外してあるが、それでも最北部の三角形の歪の値が大きいのはこの地震の影響のためであろう。南の2つの三角形は1974年伊豆半島沖地震の影響を受けている。そして半島中ほどには歪の値が $40 \sim 50 \times 10^{-6}$ と比較的大きい三角形がみられる。第2図は、1884年より1978年までの間の水平歪である。第1図の歪に、1976年検出された地殻隆起に関係した歪や1978年伊豆大島近海地震の発生による歪が加味されたものが示されているわけである。猫越峠のまわりの三角形は第1図の時期と主歪の軸方向は変化なく数値が大きくなっているような傾向にあることが注目される。梨本村の南の2つの三角形の歪が大きいのは、1) 1978年伊豆大島近海の地震の発生が従来の歪蓄積を加速した、2) 今回の地震の時出現した稲取付近の断層が梨本村南までのびているのを無視して連続歪の仮定で計算したための見かけのものである、のふたとおりの解釈が可能であろう。

これらの図から直ちに伊豆半島の現在のstressの状態が判断できるわけではないが、今回の結果は伊豆半島中部は1978年1月末なおhigh stressの状態にあることを示唆しているように思われる。

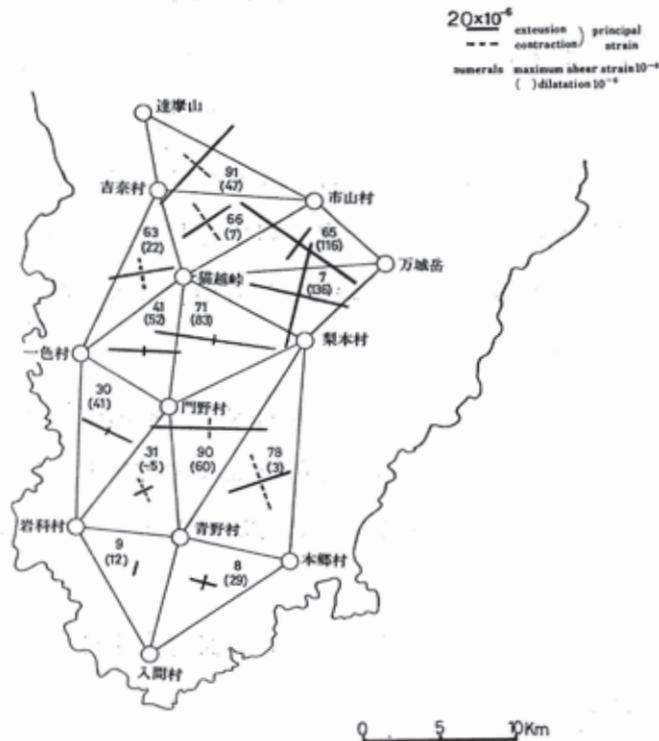
1975-1884



第1図 伊豆半島の地殻水平歪 (1884 - 1975)

Fig. 1 Earth's strain in the Izu Peninsula (1884-1975).

1978-1884



第2図 伊豆半島の地殻水平歪 (1884 - 1978)

Fig. 2 Earth's strain in the Izu Peninsula (1884-1978).